

趣味考:カヌー

平成21年4月23日投稿
会員投稿：石橋正彦

幾つかの趣味の中から今回はカヌーについて書いてみる。ご存知とは思いますが、カヌーはパドル(櫂)のブレード(水かき)が1側で、両側にあるカヤックとは異なる。

私のいとこがカナダのトロントに住んでいるので、これまでしばしば訪問しているが、そのいとこがある時郊外のアルゴンキン・パークに連れて行ってくれた。車で3時間ほど行った山の中にある広大な公園で、宿泊したコテージの主人がハウリングといって狼の遠吠えの真似をすると狼が遠吠えで応えるそうで、またテレビではキャンパーが熊に襲われたとのニュースが流れていたが、とにかく日本の公園とは桁が違う。私達が泊まったコテージは湖畔にあり、湖は幾つもの他の湖と川の流れでつながっている。そこをカヌーで漕ぎ上がって楽しむのだ。最初はいとこ夫婦がそれぞれ私達夫婦の乗ったカヌーに乗って指導してくれたが、すぐに慣れて夫婦単位でこぎながら湖から湖へと上っていった。カナダではカヌーを持参し、キャンプ用具や食料を持参して1週間くらい野営生活を送るのは普通で、山の中に「ここはキャンプしてよい所」「カヌーを担いで山越えする道」などの道標が整備されており、ちゃんと蓋がされている



野外トイレも随所にある。いとこ夫婦は1歳の息子を背負って、他に4歳、6歳の息子達を連れて1週間キャンプで移動生活をしたこともあると言っていた。私達にはなかなか想像できないたくましさを子供達に幼い頃から経験させているのを羨ましく思った。また朝早く、まだ湖面を朝霧が覆っている時に漕ぎ出し、アビという大型の鴨くらいの水鳥が「ルーン、ルーン」と鳴く声を聞きながら、霧を分けて漕ぎ出すというものなんとも神秘的で忘れられない思い出である。

すっかりカヌーの魅力に囚われた私達夫婦は日本でもカヌーを楽しめないかと考え、インターネットで調べたところ、釧路湿原がよさそう、ということになり、春と秋のシーズンにこれまで6回行った。飛行機で釧路、あるいは女満別まで行き、そこからレンタカーで道東を回りながら4・5泊するのである。最初は釧路湿原の北側にあるシラルトロ湖にある民宿にとまり、温泉を楽しみながらカヌーを楽しんだ。カヌーは宿の主人がガイドしてくれ、私が舳先に、ガイドが艫に乗り、妻と3人で午前10時頃から午後4時頃まで、途中トイレ休憩と昼食のために3回上陸したが、ともかく終日ゆっくり湿原の縁を流れる釧路川の流れに乗って下るのだ。途中でエゾシカ、キタキツネ、ミンクなどの野生動物や、白鳥、オジロワシ、丹頂、ヤマセミなどの野鳥との出会いも楽しめる。16羽もの雛を引き連れたカワアイサの雌に出会えた時は感激であった。通常は展望台などからはるか向こうに見ている丹頂の親子連れがすぐ目の前にいるということも楽しい。釧路川はクッチャロ湖から流れ出ているが、源流近くで川底が真っ黒になるくらい産卵のために大挙して遡上しているウグイの群れも感動的であった。また近くの塘路湖で湖面に浮かぶ菱の群落を分けながらゆっくり湖を縦断するのも素晴らしい。道東のカヌー行は温泉や道産馬のトレッキングなどもあわせて楽しめる。

北海道まで行かなくても、本州でどこか、と探したところ、神奈川県が青少年指導者養成プログラムとして宮が瀬湖でカヌー講習会を開催しており、これにも3回参加した。宮が瀬湖源流まで行きながら、改めて漕法技術を学んだ楽しい機会であった。

マイカヌーで自分達だけで、というまでの余裕はないが、ガイド料を払っても、艇の運搬も全部任せて、となると多少払ってもそう高くない。北海道以外にも各地でカヌー行を楽しめることもわかったので、次はどこにするか、と目下企画を楽しんでいる。